

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月11日

上場会社名 ゼリア新薬工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 4559 URL <http://www.zeria.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 伊部 幸顕

問合せ先責任者 (役職名) 取締役広報部長

(氏名) 森山 茂

TEL 03-3661-1039

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日

平成21年12月4日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	24,272	0.5	953	△1.3	968	4.5	578	△25.1
21年3月期第2四半期	24,148	—	966	—	927	—	772	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	13.98	—
21年3月期第2四半期	18.54	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	71,201	27,703	38.9	669.64
21年3月期	58,110	27,711	47.7	669.72

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 27,703百万円 21年3月期 27,711百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
22年3月期	—	8.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	53,000	11.2	2,000	51.0	2,000	46.4	1,200	△0.3	29.01

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他の(2)をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 48,290,173株 21年3月期 48,290,173株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 6,919,688株 21年3月期 6,911,782株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 41,374,186株 21年3月期第2四半期 41,659,818株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 連結業績予想につきましては、平成21年8月7日発表の数値を変更しております。詳細は4ページ「定性的情報・財務諸表等」3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

なお、業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は経済情勢等様々な要因により記載の予想数値とは異なる場合があります。

2. 当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来百万円単位にて記載しておりましたが、当連結会計年度より千円単位にて記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前第2四半期及び前連結会計年度につきましても、千円単位に変更しております。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第 2 四半期までのわが国経済は、政府の経済対策の効果などにより一部に持ち直しの動きが見られるものの、企業収益は低水準に止まっており、失業率の悪化や設備投資の減少、個人消費の低迷など、依然として厳しい状況が続いております。

医療用医薬品業界におきましては、後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用促進などの医療費抑制策が引き続き推進されており、また OTC 医薬品(一般用医薬品)市場におきましても、景気低迷による個人消費の伸び悩みなどから、ともに厳しい環境下で推移いたしました。

このような状況の中、医療用医薬品部門におきましては、最重点領域と位置付けております消化器官用薬に営業力を一層注力し、市場拡大に努めてまいりました。その結果、亜鉛含有胃潰瘍治療剤「プロマック[®]」は、市場浸透が進み売上は堅調に推移いたしました。しかし、H₂ 受容体拮抗剤「アシノン[®]」、胃炎・潰瘍治療剤「マーズレン[®]」などの製品は、市場競争の激化や後発医薬品(ジェネリック医薬品)の浸透の影響を受けて苦戦いたしました。

一方、コンシューマーヘルスケア部門におきましては、昨年度より実施しているテレビCMの効果などにより、主力製品群である「コンドロイチン群」において、製品認知度がさらに向上し売上が拡大いたしました。また、滋養強壮剤「ヘパリーゼ[®]群」や植物性便秘薬「ウィズワン[®]群」も順調に推移いたしました。

以上の結果、当第 2 四半期連結累計期間の売上高は 242 億 72 百万円(前年同四半期比 0.5%増)となりました。一方、利益につきましては、営業利益 9 億 53 百万円(前年同四半期比 1.3%減)、経常利益 9 億 68 百万円(前年同四半期比 4.5%増)、四半期純利益 5 億 78 百万円(前年同四半期比 25.1%減)となりました。

なお、平成 21 年 9 月 1 日に Tillotts Pharma AG の全株式を取得し、子会社化いたしました。同社の子会社化により、当社は同社が保有する炎症性腸疾患治療剤アサコール[®]の世界 53 ヶ国における権利を取得することになります。今後アサコール[®]のアジア地域への展開などの分野でシナジーを高め、当社グループの業績向上を目指してまいります。

また、平成 20 年 4 月に潰瘍性大腸炎治療剤として製造販売承認を申請しておりました、「Z-206 (アサコール[®])」は、平成 21 年 10 月 16 日付で厚生労働省から「アサコール[®]錠 400mg」として製造販売承認を取得いたしました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況について

当第 2 四半期連結会計期間末の総資産は 712 億 1 百万円となり、前連結会計年度末対比 130 億 91 百万円の増加となりました。その内訳は流動資産が 277 億 46 百万円で、前連結会計年度末対比 29 億 18 百万円の増加、固定資産が 434 億 54 百万円で、101 億 72 百万円の増加となっております。資産の部の増減の主なもの、流動資産におきましては、現金及び預金が 7 億 8 百万円、受取手形及び売掛金が 12 億円、商品及び製品等のたな卸資産が合計で 8 億 87 百万円増加いたしました。また、固定資産におきましては、後述の Tillotts Pharma AG の連結開始に伴うのれんの発生により、無形固定資産が 102 億 15 百万円増加いたしました。

当第 2 四半期連結会計期間末の負債合計は 434 億 97 百万円となり、前連結会計年度末対比 130 億 99 百万円の増加となりました。その増減の主なもの、支払手形及び買掛金の増加 3 億 1 百万円、短期借入金の増加 128 億 64 百万円、未払法人税等の増加 3 億 19 百万円、長期借入金の減少 9 億 59 百万円などです。

当第 2 四半期連結会計期間末の純資産は 277 億 3 百万円となり、前連結会計年度末対比 8 百万円の減少となりました。これは四半期純利益の計上 5 億 78 百万円、その他有価証券評価差額金の減少 2 億 47 百万円、前期の期末配当の実施 3 億 31 百万円等によるものであります。この結果、当第 2 四半期連結会計期間末の自己資本比率は前連結会計年度末と比べ 8.8%低下し、38.9%となりました。

なお、Tillotts Pharma AG の連結にあたりましては、同社の第 3 四半期末である平成 21 年 9 月 30 日をみなし取得日としているため、当第 2 四半期連結会計期間においては、同社の貸借対照表のみを連結しております。

(2) キャッシュ・フローについて

当第 2 四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は、期首残高対比 7 億 8 百万円増加し、33 億 78 百万円となりました(前年同四半期比 16 億 32 百万円増)。これは、投資活動によるキャッシュ・フローが 126 億 93 百万円のマイナスであったものの、営業活動によるキャッシュ・フローが 19 億 34 百万円、財務活動によるキャッシュ・フローが 114 億 66 百万円のプラスであったためであります。

当第 2 四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

< 営業活動によるキャッシュ・フロー >

当第 2 四半期連結累計期間は 19 億 34 百万円の資金の増加となりました(前年同四半期比 19 億 11 百万円増)。これは、税金等調整前四半期純利益の計上 9 億 93 百万円、減価償却費の計上 11 億 44 百万円、売上債権の減少 1 億 55 百万円、たな卸資産の増加 1 億 43 百万円、法人税等の支払 2 億 50 百万円等によるものであります。

< 投資活動によるキャッシュ・フロー >

当第 2 四半期連結累計期間は 126 億 93 百万円の資金の減少となりました(前年同四半期比 119 億 38 百万円減)。これは、有形固定資産の取得による支出 4 億 71 百万円、無形固定資産の取得による支出 1 億 24 百万円、投資有価証券の取得による支出 8 億 1 百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入 3 億 22 百万円、新規連結子会社株式の取得による支出 115 億 88 百万円等によるものであります。

< 財務活動によるキャッシュ・フロー >

当第 2 四半期連結累計期間は 114 億 66 百万円の資金の増加となりました(前年同四半期比 113 億 41 百万円増)。これは、短期借入金の増加 129 億 16 百万円、長期借入れによる収入 6 億 16 百万円、長期借入金の返済による支出 16 億 28 百万円、配当金の支払 3 億 29 百万円等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く厳しい経営環境は今後も継続するものと考えられますが、平成 21 年 12 月には潰瘍性大腸炎治療剤「アサコール[®]錠 400mg」の発売を予定しており、また「コンドロイチン群」や滋養強壮剤「ヘパリーゼ[®]群」の一層の市場拡大も見込まれることから、第 3 四半期以降につきましても、売上・利益は概ね発表済の業績予想の水準にて推移するものと予想されます。

なお、Tillotts Pharma AG の連結にあたりましては、同社の平成 21 年 12 月期決算を当社の平成 22 年 3 月期に連結する予定であります。そのため今期につきましては、連結対象期間は同社の平成 21 年 10 月から平成 21 年 12 月までの 3 ヶ月間のみとなります。通期の連結売上高につきましては同社の連結対象期間の売上高を見込み、530 億円の予想に変更いたしましたが、利益につきましては、影響が軽微であるため、平成 21 年 8 月 7 日発表の予想を変更しておりません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

ア. 簡便な会計処理

① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第 2 四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して一般債権に係る貸倒見積高を算定しております。

② たな卸資産の評価方法

当第 2 四半期連結会計期間末のたな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切下げを行う方法によっております。

③ 有形固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している有形固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④ 繰延税金資産の回収可能性の判断

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

イ. 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理

税金費用の計算

税金費用については、当第 2 四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,520,869	2,812,769
受取手形及び売掛金	13,559,614	12,359,214
商品及び製品	3,483,114	3,189,441
仕掛品	559,220	500,839
原材料及び貯蔵品	2,594,532	2,059,577
その他	4,069,776	3,942,697
貸倒引当金	△40,408	△36,287
流動資産合計	27,746,719	24,828,252
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	6,324,510	6,263,653
土地	10,082,255	10,082,255
その他(純額)	3,600,772	3,545,610
有形固定資産合計	20,007,538	19,891,518
無形固定資産		
のれん	10,340,391	—
その他	1,540,080	1,664,693
無形固定資産合計	11,880,471	1,664,693
投資その他の資産		
投資有価証券	5,904,662	5,660,392
その他	5,750,098	6,165,401
貸倒引当金	△88,100	△100,112
投資その他の資産合計	11,566,660	11,725,682
固定資産合計	43,454,671	33,281,895
資産合計	71,201,390	58,110,147
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,267,533	4,966,451
短期借入金	25,744,258	12,880,080
1年内償還予定の社債	200,000	200,000
未払法人税等	584,843	264,950
賞与引当金	926,028	827,018
返品調整引当金	187,600	186,086
売上割戻引当金	242,608	235,644
その他	2,424,444	2,276,242
流動負債合計	35,577,318	21,836,473
固定負債		
社債	2,500,000	2,600,000

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
長期借入金	4,389,693	5,349,395
退職給付引当金	179,716	168,437
その他	851,226	443,847
固定負債合計	7,920,635	8,561,680
負債合計	43,497,954	30,398,153
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,593,398	6,593,398
資本剰余金	5,414,745	5,414,745
利益剰余金	24,425,100	24,177,680
自己株式	△7,286,372	△7,278,135
株主資本合計	29,146,871	28,907,689
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,443,435	△1,195,695
評価・換算差額等合計	△1,443,435	△1,195,695
純資産合計	27,703,436	27,711,993
負債純資産合計	71,201,390	58,110,147

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	24,148,371	24,272,495
売上原価	11,110,542	11,288,420
売上総利益	13,037,828	12,984,074
返品調整引当金戻入額	181,167	186,086
返品調整引当金繰入額	190,836	187,600
差引売上総利益	13,028,159	12,982,560
販売費及び一般管理費	12,062,085	12,028,909
営業利益	966,073	953,650
営業外収益		
受取利息	2,426	1,107
受取配当金	132,282	136,647
その他	22,390	43,859
営業外収益合計	157,099	181,614
営業外費用		
支払利息	124,733	118,670
その他	71,301	48,125
営業外費用合計	196,034	166,796
経常利益	927,138	968,468
特別利益		
投資有価証券売却益	156,528	36,762
退職給付信託設定益	301,975	—
受取補償金	—	30,987
受取和解金	—	40,000
貸倒引当金戻入額	1,208	3,511
特別利益合計	459,712	111,260
特別損失		
固定資産除却損	24,139	1,908
投資有価証券売却損	32	—
買収調査費用	—	84,788
特別損失合計	24,171	86,697
税金等調整前四半期純利益	1,362,680	993,032
法人税等	590,385	414,585
四半期純利益	772,294	578,447

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,362,680	993,032
減価償却費	1,095,590	1,144,526
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△366,911	11,278
退職給付信託有価証券の設定額	562,691	—
退職給付信託設定損益 (△は益)	△301,975	—
受取利息及び受取配当金	△134,708	△137,754
支払利息	124,733	118,670
投資有価証券売却損益 (△は益)	△156,495	△36,762
売上債権の増減額 (△は増加)	△526,272	155,729
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△949,255	△143,428
仕入債務の増減額 (△は減少)	537,323	71,174
前払年金費用の増減額 (△は増加)	△187,240	129,670
その他	△346,789	△140,322
小計	713,368	2,165,814
利息及び配当金の受取額	134,955	138,066
利息の支払額	△126,080	△118,726
法人税等の支払額	△698,862	△250,445
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,380	1,934,708
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△195,409	△471,520
無形固定資産の取得による支出	△268,705	△124,923
投資有価証券の取得による支出	△1,368,585	△801,502
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,203,725	322,997
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△11,588,690
その他	△125,184	△29,370
投資活動によるキャッシュ・フロー	△754,160	△12,693,010
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,493,751	12,916,870
長期借入れによる収入	—	616,000
長期借入金の返済による支出	△914,146	△1,628,394
社債の償還による支出	△100,000	△100,000
自己株式の取得による支出	△18,648	△8,237
配当金の支払額	△336,302	△329,836
財務活動によるキャッシュ・フロー	124,653	11,466,402
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△606,126	708,100
現金及び現金同等物の期首残高	2,352,131	2,670,679
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,746,005	3,378,779

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第 2 四半期連結累計期間（自平成 20 年 4 月 1 日 至平成 20 年 9 月 30 日）及び当第 2 四半期連結累計期間（自平成 21 年 4 月 1 日 至平成 21 年 9 月 30 日）

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める医薬品事業の割合がいずれも 90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第 2 四半期連結累計期間（自平成 20 年 4 月 1 日 至平成 20 年 9 月 30 日）

在外連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

当第 2 四半期連結累計期間（自平成 21 年 4 月 1 日 至平成 21 年 9 月 30 日）

全セグメントの売上高の合計に占める本邦の割合が 90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第 2 四半期連結累計期間（自平成 20 年 4 月 1 日 至平成 20 年 9 月 30 日）及び当第 2 四半期連結累計期間（自平成 21 年 4 月 1 日 至平成 21 年 9 月 30 日）

海外売上高は、連結売上高の 10%未満のため、その記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第2四半期連結累計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円, 端数切捨表示)

事業の種類別セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医薬品事業	16,730,208	4.6
(1) 医療用医薬品部門	7,765,602	△6.8
(2) コンシューマーヘルスケア部門	8,964,606	17.0
その他事業	—	—
合計	16,730,208	4.6

(注) 1. 金額は正味販売価格換算で表示しております。

2. 金額は消費税等抜きで表示しております。

(2) 受注実績

当社グループは販売計画並びに生産計画に基づいて生産を行っており、受注生産は行っておりません。

(3) 商品仕入実績

当第2四半期連結累計期間における商品仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円, 端数切捨表示)

事業の種類別セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医薬品事業	5,376,248	△10.2
(1) 医療用医薬品部門	4,518,981	△5.9
(2) コンシューマーヘルスケア部門	857,266	△27.8
その他事業	—	—
合計	5,376,248	△10.2

(注) 1. 金額は実際仕入額で表示しております。

2. 金額は消費税等抜きで表示しております。

(4) 販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円, 端数切捨表示)

事業の種類別セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医薬品事業	24,172,344	0.4
(1) 医療用医薬品部門	14,365,582	△5.8
(2) コンシューマーヘルスケア部門	9,806,761	11.3
その他事業	100,150	22.6
合計	24,272,495	0.5

(注) 金額は消費税等抜きで表示しております。

(補足資料 1)

主要製商品売上高 連結

(単位：百万円，端数切捨表示)

区 分 \ 期 別	前第 2 四半期連結累計期間 自 平成 20 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 9 月 30 日	当第 2 四半期連結累計期間 自 平成 21 年 4 月 1 日 至 平成 21 年 9 月 30 日	増 減(△) 比(%)
1 医 薬 品 事 業	24,066	24,172	0.4
(1) 医療用医薬品部門	15,253	14,365	△5.8
アシノン [®] カプセル 75・150 アシノン [®] 錠 75mg・150mg	3,610	3,531	△2.2
プロマック [®] 顆粒 15%・D 錠 75	2,853	2,975	4.3
マーズレン [®] -S 顆粒・ES 錠	2,920	2,611	△10.6
ベオン [®] 錠 80	520	475	△8.7
新レシカルボン [®] 坐剤	444	446	0.5
アピテン [®]	406	389	△4.1
ランデル [®] 錠 10・20・40	413	367	△11.3
アンサー [®] 20 注	176	163	△7.6
その他	3,907	3,405	△12.8
(2) コンシューマーヘルスケア部門	8,813	9,806	11.3
コンドロイチン群	2,994	3,519	17.5
ヘパリーゼ [®] 群	651	832	27.6
ウィズワン [®] 群	564	627	11.2
ハイゼリー [®] B 群	381	345	△9.6
ドルマイシン [®] ・ドルマイコーチ [®] 軟膏群	353	299	△15.3
その他	3,867	4,183	8.2
2. そ の 他 の 事 業	81	100	22.6
合 計	24,148	24,272	0.5

(補足資料2)

新薬パイプラインの状況

I. 国内開発状況

1) 消化器系分野

(平成21年11月11日現在)

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序 及び 特長	備考
承認	Z-206/ メサラジン	自社	潰瘍性大腸炎	pH依存型放出制御製剤	導入 製品名 アサコール
フェーズⅢ	Z-206/ メサラジン	共同開発 (協和発酵キリン)	クローン病	pH依存型放出制御製剤	導入 アサコール効能追加
	Z-103/ ポラブレジンク	自社	味覚障害	亜鉛補充	導入 プロマック効能追加
	Z-338/ アコチアミド	共同開発 (アステラス製薬)	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社オリジナル
フェーズⅠ/Ⅱ	Z-208/ タミバロテン	共同開発 (テムリック)	肝細胞癌	レチノイン酸RAR α 受容体作動作用	導入

2) その他の分野

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序 及び 特長	備考
フェーズⅢ 追加試験	Z-100	自社	子宮頸癌	免疫調節作用	自社オリジナル アンサー効能追加
フェーズⅠ	Z-207	自社	アレルギー性鼻炎	粘膜組織凝固・収縮作用 エタノール・ステロイド配合剤	導入
開発準備中	Z-521	自社	低リン血症性くる病	リン酸補給	自社オリジナル 未承認薬開発支援対象

II. 海外開発状況

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序 及び 特長	備考
承認 (韓国)	Z-103/ ポラブレジンク	導出 (SK Chemicals)	胃炎・胃潰瘍	胃粘膜保護作用	導入
フェーズⅢ準備中 (欧州)	Z-338/ アコチアミド	自社	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社オリジナル
フェーズⅡ (北米)	Z-338/ アコチアミド	共同開発 (アステラス製薬)	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	導出 自社オリジナル
フェーズⅡ準備中 (欧州)	Z-360	自社	膵臓癌	ガストリンCCK ₂ 受容体拮抗作用	自社オリジナル